

きもの文化検定公式教本Ⅰの改定について

公式教本Ⅰ「きものの基本」は、初版が2006年に発行され、最新版は九訂版となっています。以下が初版から改定された内容になります。

ページ	表題・該当部分	正	誤
P23	ぼかし染小紋と袴	小紋・色無地など	小紋・色無地・ 振袖 など
P23	羽織着用のクラシックスタイル	定着 しています 。	定着 しているよう です。
P28	帯の形	袋帯が約 75 cm長くなります。	袋帯が約 1m 長くなります。
P28	袋帯	長さは約 4.35 m	長さは約 4.2 mより
P29	袋帯	長さは四メートル 三五 センチより。	長さは四メートル 二〇 センチより。
P33	博多帯・半巾帯	仏具の独鈷、 華皿 の模様などが	仏具の独鈷、 花皿 の模様などが
P34	コラム 帯のミニ知識「綴れ織」	経糸（たていと）に 緯糸（よこいと）	細い経糸に 太い緯糸
P48	第一礼装	袴は仙台平・ 米沢平 などとよばれる	袴は仙台平とよばれる
P48	礼装	写真草履の鼻緒 白 写真修正	写真草履の鼻緒 黒
P48	右下写真の説明	黒羽二重のきものと羽織に 縞袴 を着けて。	黒羽二重のきものと羽織に 仙台平の袴 を着けて。
P49	準礼装	こうした場合の最も多い取り合わせは、縞いの一つ紋を付けた きものと羽織に袴 を合わせた装いです。袴地は 紋袴か無地袴でも、紬地でもかまいません 。	こうした場合の最も多い取り合わせは、縞い一つ紋を付けた 御召のきものと羽織に紋袴か無地袴 を合わせた装いです。袴地は 紬地でもかまいません 。
P51	column コラム 帯の結び方	片ばさみ	片ばさみ（ 袴下 ）
P60	宮参り	このとき抱いた赤ちゃんに お祝い着（女兒は『初着』、男児は『のしめ』とお祝い着（男児の場合）をかけます 。	このとき赤ちゃんには 初着を着せ、その上に「お祝い着（男児の場合）」をかけます 。

			合は『のしめ』とよぶ)を着せます。
P63	十三参り 「四つ身を卒業し大人の装いに」	身丈の4倍の布地	身幅・身丈の4倍の布地
P66	全国きもの主要産地マップ	新潟に“五泉「駒紹・羽二重」”を追加	-
P66	全国きもの主要産地マップ	秋田県 秋田畝織	秋田県 秋田畦織
P68	染めの主な産地と特徴 「加賀友禅」	古代紫	墨
P69	染めの主な産地と特徴 「京友禅」	染匠(せんしょう)	染)匠(そめしょう)
P69	染めの主な産地と特徴 「京小紋」	多いときには数十枚もの型紙を使うこともあります。	数十枚から多いときには数百枚もの型紙を使うこともあります。
P72	黄八丈	かりやす(こぶなぐさ)	こぶなぐさ(島名かりやす)
P72	黄八丈	まだみ(たぶ)	たぶ(島名まだみ)
P74	大島紬	明治以降に鹿児島でも作られていましたが、第二次大戦中に島民が鹿児島に疎開するとさらに生産されるようになり、現在では…	第二次大戦中、島から技術者が疎開し、そのまま鹿児島で作られるようになり、現在では…
P79	古代から現代へのスタイル変遷を追って「呉の国の衣服がきものの原型に」	狩衣 (かりぎぬ)	狩衣 (からぎぬ)
P88	染のきものの生地 (左上の写真の説明文)	繭から引き出した糸をふのりを使い一本に合せたものが生糸です。	繭から引き出した糸を撚り合わせたものが生糸です。
P88	染のきものの生地	「縫取り縮緬」の写真	-
P90	御召	緯糸には強く撚りをかけた御召糸	緯糸には強く撚りをかけた生糸
P90	コラム きものを織る機について	帯や御召などを織る紋織の力織機	帯や御召などを織るために使われるジャカードという力織機
P124	器物文様	「誰が袖」の写真	-
P127	正倉院文様	「宝相華」の写真	-

P127	名物裂文様	中世から近世初頭にかけて	室町から桃山時代にかけて
P128	幾何学文様	卍の字を崩して	卍の地を崩して
P136	紋の大きさと男の礼装	男性の写真の草履の色 (白) 写真修正	男性の写真の草履の色 (黒)
P150	女性のきもの(衿)	衽(おくみ)さがり	衽さがり
P154	コートの衿型(道中衿)	下の横線なし	-
P169	手を洗う	袂が邪魔なら帯締めなどに挟んでおきます。	袂が邪魔なら帯締めに挟んでおきます。
P170	座布団に座る	前を残さないように目いっぱいに座り	前を残さないようにいっぱい座り
P172	七五三	菅(すが)糸	菅糸(すがいと)
P173	成人式	光源氏が束帯を	光源氏が衣冠束帯を
(注) (1) P88 染のきものの生地「縫取り縮緬」の写真は変わりました。 (2) P124 器物文様「誰が袖」の写真は変わりました。 (3) P127 正倉院文様「宝相華」の写真は変わりました。 (3) 令和6年4月現在			